資料２

富田林市文化芸術振興ビジョン策定委員会　第２回の振り返り

１．調査結果について

（１）全体

・アンケートの結果について、あまり驚きのある要素はない。
・数量的な結果についても富田林市らしさが分かる色があった方が良かったのではないか。

（２）子ども

・子どものいる家庭で興味のある催しがなかったとの回答数が非常に多いと感じた。この点に関して、子育て支援と結び付けてはどうか。
・「子どもに生涯続けられる趣味を持ってもらいたい」という思いを感じ取ることができる。この思いを持ちながらも、実際にはそれをするお金がないという現状があり、その不満をアンケート内で曝け出しているように思う。

（３）仕事をしている世帯

・文化芸術を鑑賞しない理由の回答で最も多かったのが「仕事」で４割を占めていること、また文化的に感じる時の回答で最も多かったのが「1 人でいる時」だったことについてである。この点を踏まえ、仕事をしている世帯も１人で行ってみたいと思える工夫が必要なのではないか。

（４）文化芸術に関心がない市民

・文化芸術に関心がない人が多い印象を得た。文化芸術に興味関心がなかった者の興味関心を引き出すのは難しい。アンケートの中では、興味関心を持たない理由に「きっかけがない」という回答者が多くいた。私自身、子育て時期はオーケストラから一旦離れてしまったが、子育てが終わるとまたオーケストラに戻った。根の部分で文化芸術に興味関心があれば戻ることができるがそうでない人はその余地がない。

２．骨子案について

（１）将来像・基本方針

・作家を育てる訳ではないということを共通の認識で持っている必要があるということである。あくまで、この項目での重要な目的は、個々の幸福度（ウェルビーイング）を向上させることである。作家を育てる訳ではなく、芸術教育や資源を育てることを共通理解として持っておきたい。
・誰一人取り残さないという観点で、人権の部分でも文化は大きな力がある。本人が豊かになるという視点と様々な立場の人が豊かになる視点との両方が必要である。
・ビジョンに出ている案がどちらかと言うと他動的であるように感じる。自主的に文化に興味を持つような施策が必要であると感じる。このビジョンで掲げている「ふれる」、「つなげる」、「そだてる」は少し高い目線で見ているように感じる。この観点も大切ではあるが、子ども達の文化芸術に関する根っこの部分にも焦点を当てて、施策を考えることも大切であると思う。
・「ふれる」、「つなげる」、「そだてる」のサイクル図の外側の人を循環の中に巻き込むこと

が大切なのではないか。
・１人でも多くの富田林市市民が文化芸術に触れて欲しい。文化芸術との出会いで、「人生の潤いになっているな」と思ってもらいたい。ひいては、富田林で出会った人と繋がりができ、10 年 20 年後もその関わりを継続させることで人生を豊かにしてもらいたい。

（２）主な施策・取り組み

①ふれる

・外国人市民に対する情報の伝達方法についても課題である。日本語が分からないので外国語でドラマを見ているなど、日本にいながらも日本語に触れない状況である。その状況を踏まえて、色々な人に情報を発信できる視点を持ち、実際の施策として入れていただきたい。
・自由記入欄で「広報や活用」に関する意見が多々あり、情報収集の方法が足りていないのではないかと感じたことである。SNS の活用が足りていないのではないかと感じる。
・富田林市にも学者や学芸員を呼び込み、歴史資料館をつくるべきであり、１箇所に歴史的資料は集めるべきである。

②つなげる

・特に若者はボランティア活動に無関心であり、あまり参加してくれない。年長者の価値観や意見が古くなり、若者の意見と合わなくなってきている。そのような状況からも、若者の意見を取り入れていく必要があると認識している。そうしないと、若い方の意見が入ってこない。このような悩みの中でボランティア活動を活発化させるにはどうしたらいいのか。
・自分自身、学校から講師をお願いされたらぜひやってみたいと思うし、もし期待に沿えなくても紹介できる作家やアーティストはいる。このように思う人は多いのではないかと思うが、そもそもとしてそのような話（仕組み）が無いことは問題であるように思う。地域にいるアーティストが見えるように、アーティストバンクを設置するなど対応をしっかりできていれば良い。
・すばるホールに関して２点ある。１つ目が設備についてであるが、現状壇上に上がる手段が階段のみで、車いすで上がることができない。そのため、階段をスロープにして車いすでも上がれるようにして欲しい。２つ目が食堂についてであるが、個人的に「食は文化である」と思っているので、皆さんにも共通認識として持ってもらい、すばるホールを充実させるという意味でも食堂を良い食堂に代えてもらいたい。

③そだてる

・基金を用いた活動助成について、これを「ふれる」、「つなげる」にも基金が行き渡るようにしてほしい。
・子どもが文化芸術に参加体験しない理由として、その他の内容に「恥ずかしいから」という記述があり、違和感を持った。例えば、文化部の内容をカテゴライズせず、まずは文化全般という入口を設け、様々な文化芸術に触れてみて、興味の窓口を広げてみてはどうか。
・学校教育の中で文化芸術を取り入れていくことは重要であるとの思いは変わらないので、外部講師を充実させるべきであると思う。

・子育て等子どもに焦点が当たった話が多かったと思う。メインをどこにするかを決める必要があるように感じる。仮に、メインを「子育て」や「子どものアート」などにするのであれば、高齢者や国際交流の分野は見ないのかという問題になってくると思うが、共生できれば良いと思っている。

（３）推進体制

・膨大な量の取組みをどのように行っていくのかを考える必要がある。